

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Ling Yun Junior High School



呉市立音戸中学校

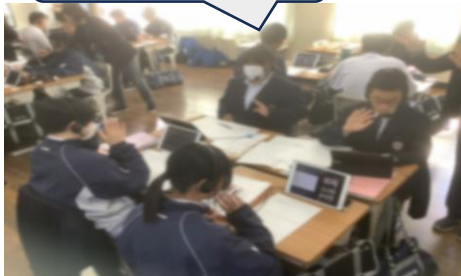
交流の概要

学 年：第2学年

単元名：Stage Activity2 My School and School Life
(NEW HORIZON English Course2)

ねらい：異文化の理解を深めるために、互いの学校や学校生活などについて紹介し合うことができる。

自己紹介の様子



発表を聞いている様子



活動内容：

【1回目】

①挨拶（全体）

教員が授業の流れを説明した。

②自己紹介（グループ）

各クラス6つのグループに分かれ、自己紹介（特技・部活動など）を行った。

③学校紹介（グループ）

互いの学校紹介（学校行事、学校生活など）をスライドを使いながら行った。

④互いの国について質問（グループ）

次回の交流会で互いの国について詳しく知りたいこと（流行っているアニメ、制服の有無など）について質問した。

⑤挨拶（全体）

教員が次回の授業に何をするのかを確認した。

【2回目】

①挨拶（全体）

教員が授業の流れを説明した。

②1回目の④で聞かれた質問に答える（グループ）

スライドを使いながら、互いの質問について答えた。スライドの画像などについて、やり取りする中で、知りたかったことについて理解を深めた。

③フリートーク（グループ）

好きなものや関心のある事柄などについて、自由に会話をした。話題が広がり、互いのことについて知ることができた。

④挨拶（全体）

教員が感謝の気持ちを伝えた。

≪交流方法：Google Meet≫

大切にしたこと

- ・全ての生徒に英語を使う機会を確保するため、少人数のグループ編成を行い、話す順番や担当を決めた。
- ・交流中は、既存の知識を駆使しながら自分たちでコミュニケーションを図ることができるよう、教員は必要最小限の支援のみ行った。
- ・相手が理解しやすいように、既習表現を用いて正確に表現するよう指導した。また、話す時はアイコンタクトを心がけることや相手の発表などを聞く時は相づちを打ったり、発表する時はつなぎ言葉を用いたり、相手の理解を促すためにジェスチャーを活用するなどして会話を継続・発展させるよう指導した。
- ・自分たちの話している内容が相手に伝わるよう、スライドを提示させたり、そのスライドに英語を表記させたりするなど視覚支援の工夫をさせた。

交流を終えて

生徒の声

- ・台湾のことをよく知ることができた。
- ・交流する前は不安な気持ちがあったが、交流してみると台湾の生徒が明るくて楽しめた。
- ・話したいことが英語でうまく伝えられなかったり、相手が何を話しているのかが理解できず悔しい思いをしたりしたので、英語を勉強したいと思った。
- ・少し英語に対して興味を持ち、今回のオンライン授業を通して自信がいった。

先生の声

- ・相手に分かりやすく伝わるようスライドを作ったり、自分の考えをグループで話し合ったりする姿などを見ることができたため、自分たちと同じように英語を勉強している海外の生徒とつながることは、英語学習をする上で良い刺激になるのだと感じた。
- ・1回目の交流後、自主的に台湾について調べている生徒がいたり、2回目の交流では、台湾の生徒が動画等を準備してくれていたこともあり、楽しく交流できた生徒もおり、本事業に参加させてよかったと思った。